

稲田植物研究所開設記念砥峯高原採集会の記

岩 谷 成 彦

シダの稲田氏で知られる、兵庫県羊歯植物誌の著者・稲田又男氏が、本年10月に神崎郡大河内町川上という処に植物研究所を開設された。

川上という処は、ノハナショウブの群生地として知られる^{とのみね}砥峯高原をはじめ、峯山高原、栃原高原、千町峠、福知溪谷など播州高原や播但国境の山々登山の根拠地で、最近、ハイキングに、キャンプ場、スキー場として訪ずれる人が多くなっている処である。

稲田氏の開所を記念して、砥峯高原で姫路支部主催、室井紳博士・稲田氏指導の植物採集会が行なわれた。

1964年10月25日。

姫路駅7時17分発の播但線にのり、寺前駅で下車。駅前より川上行のバスに乗る。曇天であるがハイキングの客が多く、バスはすぐ一杯となる。9時10分、川上着。

終点のお寺に向って左側の道をゆくと、谷川をへだてて稲田植物研究所の新しい建物が見える。

荒田と立札の立っているスギ林の中で、講師の紹介、今日のコースの説明があって、いよいよ採集開始だ。ここより砥峯までは6キロ、1時間半の上りとある。

この荒田よりモミの木と呼ばれる水場までは大体スギの植林地となっている所が多く、道は先般の豪雨のため非常に荒れている。手入さえなければジープの上れる道である。室井先生より、目につく植物について、いろいろ説明や観察の仕方について聞きながら登ってゆく。アケボノソウ、オタカラコウ、ノコンギク、クロバナヒキオコシ、ヨシノアザミ、ハナタデ、ヤマシロギク、ヨツバヒヨドリ、ベニバナホログキクなどの花が目につく。また、マタタビの実、コマユミの実も目につく。シダとしては、ヒメワラビ、ヤマイヌワラビ、イヌワラビ、ヘビノネゴザなどがあり、水場の所にミヤマベニシダ、少し上った所にミヤマイヌワラビがある。

右の斜面より川が流れてきて、左の谷へ落ち込んでいるこのあたりオオミゾソバが多い。ここをモミの木と呼び、登山路唯一の水場である。

モミの木の地名のとおり、モミノキの大木がある。これより上は雑木林が多くなる。左側は谷で、右側は斜面である。ヤマハンノキ、トチノキ、ウリカエデ、シラキ、コバノミツバツツジ、イヌエンジュ、ウスギヨウラク、ヨグソミネバリ、ホホノキ、アワブキ、クマシダ、コシアブラ、ヤマボウシ、コハクウンボク、タムシバ、

アカシダ、葉の細長いテリハコナラ。ミズナラ、イヌブナが出てくる。ヒカゲノカヅラもみられる。モミノキも所々ある。

左側の谷へ大きくガレている所から少し上ると道は尾根道で平坦となる。途中、オノエヤナギが少しあったが、沿道のヤナギは全部ダイセンヤナギとのことである。これから先に特に多い。ハウチワカエデ、シタキツルウメモドキ、ヤマグワ、アマヅル。

スギの木は山の北斜面の湿気の多い所に植えられるといわれているが、ここから見える山々はその説のとおり、北斜面は真黒にスギの木が植えられている。北斜面以外の斜面や山頂近い所は全然植えられていない。

ヤネフキザサの背が高くなってくる。その下、オオバギボウシ、センブリが目につく。

スギ林をぬけると高原につく。眼前面のススキ原のゆるやかな斜面が開ける、11時30分。

砥峯高原は中央に池沼をもち、それに入り込む幾つかの川が谷や湿地をつくる以外、ゆるやかな起伏をもつススキ原である。その下に次の植物が目につく。ウメバチソウ、アレノギク、モリアザミ、ヤマボチク、リンドウ、オオバギボウシ、ヒメヨモギ、ゴマナ、コオニユリ、コウリンカ、ホクチアザミ、ソバノヤマハハコ、シロコブナグサ、ミツバツチドリ。

その他、ヤマハギ、レンゲツツジ、タニウツギ、ネコヤナギ、ヤマハンノキ、ヤネフキザサ等がススキ原の中に目立つ。

湿地では、タチコオガイゼキショウ、イトイヌノヒゲ、ヒゲシバ、トダシバ、オオアブラガヤ、ハリイ、ホタルイ、カリマタガヤ、アイバソウ、イタチハギ、サワヒヨドリ、ノハナショウブ、コリヤナギ、チダケサン、ミズギボウシ、ヤマイバラ、アケボノソウ、ヒメシダ、タニヘゴ、ミズゴケなどが見られる。

特に中央の池沼に一面に生えているクログワイに麦角がついているのが珍しかった。その他ヒルムシロ、アカバナ、ミソハギなど。

砥峯高原開拓小屋の前で昼食をとる。牧舎の前に集めてある木にキクラゲがついている。

昼食後、高原の植物を採集する。

ここより峯山高原へは尾根続きである。峯山高原からさらに雪彦山へゆくことが出来る。また、ここより流れ

(以下 p.85より)

出る川に沿って下れば、実粟郡福知溪谷へ。途中合流する川に沿って上れば、千町峠へゆく長曾^{ナガソ}に出る。長曾からは川上にもどる峠(ハタギリ越)もあるので、一巡出来る変化あるコースがとれる。(長曾ではキブネギクの大群生地が稲田氏等により発見されている。)

どのコースをとろうかと相談したが、川上まで引き返すことにする。

下り道は、モミの木まで近道をとる。開拓小屋の横の道を谷川に沿って下る急斜面である。所々モミノキが残っている程度で大木はない。ハバヤマボクチ、チドリノキ、ミカエリソウ、ウワバミソウ、ヘビノネゴザ。

モミの木の所で上って来た道と合う。皆洞乱が一杯になったのか採集せず、どんどん下るだけだ。

15時40分川上発のバスにのる。ハイカーが多いので一杯になる。しかし、長谷で殆んど皆おりてしまい、寺前まで来る人は殆んどなかった。

稲田氏は川上に住み付近の植物を調査されているが、早速ルリデライヌワラビを発見されている。ルリデライヌワラビは名のとおり船越山瑠璃寺で発見されたものであるが、その後稲田氏により雪彦山でも見つけられている。これで3カ所目の発見となった。本県内も詳しく調査すればこのような新しい発見は次々出てくるものと思われる。

今後の稲田氏の精進を祈り開所記念採集会記録を終える。

稲田植物研究所は、砥峯高原ロッジを併設し、宿泊設備を設けている。大勢行っても附近の民家を利用して受入れることが出来るとのことであるので、林間学校に、登山基地として、また植物採集に大いに利用されるようおすすめする。

山をへだたてた生野町栃原谷にも播州高原栃原ロッジがあり、経営者の西村公夫氏は昆虫・植物の研究家でもあるので砥峯高原ロッジと両方利用すれば、さらに多くの活用方法が考えられる。

詳細については、神崎郡大河内町川上、稲田植物研究所に照会願いたい。